



学校だより

10月号

令和3年9月30日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



「当たり前のこと」が素晴らしい

学校長 後藤 直樹

ようやく分散登校が終わろうとしています。基本的には子どもたちの登校は一日おきとはなりましたが、祝日の関係で登校日が週にたった1日となる子どもたちもいました。クラスの友達が一堂に会するのは7月以来、2カ月ぶりとなります。実は全児童が集まったの朝会や集会となると、5月中旬の朝会を最後に現在まで一度も実施できていません。そんな子どもたちに夏休み明けの朝会（テレビ放送）では、生活のリズム「早寝・早起き・朝ご飯」を大切にしていこうという話をしました。一日おきの登校という状況の中、子どもたちにとって、それは簡単なようで難しいことだと思いました。

さて、今年は既にきんもくせい金木犀が開花し、少し早めに秋が近づいているようです。特に晴れた日には心地よい風が校舎を吹き抜けます。そんな日の中休み、子どもたちは一斉に校庭に飛び出し、直接身体が触れ合うような遊びはできないという制限の中ではありますが、思い思いに限られた時間を楽しんでいます。その様子を見ていてひとつ気付いたことがあります。それは、休み時間終了のチャイムが鳴ると同時に、ほとんどの子どもたちが一斉に走り出すのです。鬼ごっこやボール遊びの途中なので、もう少し！とか、きりの良いところまで！と考えそうなものですが、吸い寄せられるように昇降口に向かって走り出します。これには感心しました。「休み時間の後は急いで教室に戻ること。」と書かれたきまりはどこにも見当たりません。子どもたちにとっては、それが「当たり前のこと」になっているのです。そしてその後、教室に入る前の手洗いとうがいも、もはや一連の動きとして習慣となってきました。そんな子どもたちを心から褒めてやりたい気持ちになりました。

10月には昨年度と同様に分散・縮小した形とはなりますが「運動会」、そして11月には延期としていた「修学旅行」を予定しています。かれこれ2年間になろうとしているマスク生活に耐えて、頑張り続けている子どもたちの苦労に何とかして報いてやりたいと願わずにはいられません。

